

- (ハ) サイトメガロウイルス
- (ニ) EBウイルス
- (ホ) エコーウイルス
- (ヘ) ヘルペスウイルス
- (ト) インフルエンザウイルスA型
- (チ) インフルエンザウイルスB型
- (リ) ムンプスウイルス
- (ヌ) パラインフルエンザウイルスI型
- (ル) パラインフルエンザウイルスII型
- (ヲ) パラインフルエンザウイルスIII型
- (ワ) ポリオウイルスI型
- (カ) ポリオウイルスII型
- (ヨ) ポリオウイルスIII型
- (タ) RSウイルス
- (レ) 風疹ウイルス
- (ソ) 麻疹ウイルス
- (ツ) 日本脳炎ウイルス
- (ネ) オーム病クラミジア

イ ウイルス抗体価に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

ウ 単純ヘルペスウイルス及び水痘・帯状疱疹ウイルス抗体価を測定した場合はそれぞれ算定できる。

- (6) 「11」のヘリコバクター・ピロリ抗体精密測定を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10月31日保険発第180号）に即して行うこと。
- (7) 「15」の抗抗酸菌抗体価精密測定は、金コロイド免疫測定法又はEIA法により実施した場合に算定する。
- (8) 診療録等から非加熱血液凝固因子製剤の投与歴が明らかな者及び診療録等が確認できないため血液凝固因子製剤の投与歴は不明であるが、昭和53年から昭和63年の間に入院し、かつ、次のいずれかに該当する者に対して、「15」のHIV-1抗体価又は「16」のHIV-1,2抗体価を実施した場合は、HIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず所定点数を算定する。

ただし、保険医療機関において採血した検体の検査を保健所に委託した場合は、算定しない。

ア 新生児出血症（新生児メレナ、ビタミンK欠乏症等）等の病気で「血が止まりにくい」との指摘を受けた者

イ 肝硬変や劇症肝炎で入院し、出血の著しかった者

ウ 食道静脈瘤の破裂、消化器系疾患により大量の吐下血があった者

エ 大量に出血するような手術を受けた者（出産時の大量出血も含む。）

なお、間質性肺炎等後天性免疫不全症候群の疾病と鑑別が難しい疾病が認められる場

合やH I Vの感染に関連しやすい性感染症が認められる場合でH I V感染症を疑わせる
自他覚症状がある場合は、本検査を算定できる。

(9) H I V－1抗体価及びH I V－1,2抗体価

ア 区分番号「K 9 2 0」輸血料（「4」の自己血輸血を除く。以下この項において同
じ。）を算定した患者又は血漿成分製剤（新鮮液状血漿、新鮮凍結人血漿等）の輸注を
行った患者に対して、一連として行われた当該輸血又は輸注の最終日から起算して、概
ね2か月後に「15」のH I V－1抗体価又は「16」のH I V－1,2抗体価の測定が行わ
れた場合は、H I V感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず、当該輸血又は輸注
につき1回に限り、所定点数を算定できる。

イ 他の保険医療機関において輸血料の算定又は血漿成分製剤の輸注を行った場合であ
ってもアと同様とする。

ウ ア又はイの場合においては、診療報酬明細書の摘要欄に当該輸血又は輸注が行われた
最終日を記載する。

(10) 「16」のH I V－1,2抗体価は、E I A法、P A法又は免疫クロマト法による。

(11) 「17」のA群β溶連菌迅速試験と区分番号「D 0 1 8」細菌培養同定検査を同時に実施
した場合は、A群β溶連菌迅速試験の所定点数のみを算定する。この場合において、A群
β溶連菌迅速試験の結果が陰性のため、引き続いて細菌培養同定検査を実施した場合であ
っても、A群β溶連菌迅速試験の所定点数のみ算定する。

(12) インフルエンザウイルス抗原精密測定

ア 「18」のインフルエンザウイルス抗原精密測定は、発症後48時間以内に実施した場合
に限り算定することができる。

イ 本検査と「11」のウイルス抗体価のインフルエンザウイルスA型若しくはインフルエ
ンザウイルスB型又は「17」のノイラミニダーゼを併せて実施した場合は、主たるもの
のみ算定する。

ウ 本検査は光学的抗原抗体反応（O I A法）により実施した場合にも算定できる。

(13) 「18」のカンジダ抗原は、カンジダ血症又はカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に
算定する。

(14) 糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原

ア 「18」の糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原は、E I A法又は免疫クロマト法により
測定した場合に限り算定できる。

イ 当該検査を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては
「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10
月31日保険発第180号）に即して行うこと。

(15) 「18」のRSウイルス抗原精密測定は、入院中の患者において当該ウイルス感染症が疑
われる場合に適用する。

(16) 「20」の大腸菌O157L P S抗原精密測定、「21」の大腸菌O157L P S抗体及び区分番
号「D 0 1 8」細菌培養同定検査の「2」の消化管からの検体によるものうちいずれか
を複数測定した場合は、主たるもののみ算定する。大腸菌O157L P S抗体はL A法によ
る。

(17) ノイラミニダーゼ

- ア 「17」のノイラミニダーゼは酵素反応法により、インフルエンザウイルス感染の診断を目的として発症後48時間以内に実施した場合に限り算定する。
- イ 本検査と「11」のウイルス抗体価のインフルエンザウイルスA型若しくはインフルエンザウイルスB型又は「18」のインフルエンザウイルス抗原精密測定を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- (18) 「19」のD-アラビニトールは、カンジダ血症又はカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定する。
- (19) 「19」の抗クラミジア・ニューモニエ I g M抗体価精密測定を、「9」のクラミジア・ニューモニエ I g G抗体価精密測定又は「10」のクラミジア・ニューモニエ I g A抗体価精密測定と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
- (20) 「20」のクラミジアトラコマチス抗原精密測定は、泌尿器、生殖器、結膜又は鼻咽腔内からの検体によるものであり、当該検査に係る検体採取料は所定点数に含まれる。
- (21) 「20」のクラミジアトラコマチス抗原精密測定（結膜又は鼻咽腔内からの検体によるもの）は、封入体結膜炎若しくはトラコーマ又は乳児クラミジアトラコマチス肺炎の診断のために実施した場合に算定できる。
- (22) 「20」のアスペルギルス抗原はL A法又はE L I S A法により、侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できる。
- (23) 「21」の淋菌同定精密検査は、区分番号「D 0 1 8」細菌培養同定検査を同時に実施した場合は、別に算定できない。
- (24) 「21」の単純ヘルペスウイルス特異抗原は、ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できる。
- (25) 「22」の大腸菌抗原同定検査は、区分番号「D 0 1 8」細菌培養同定検査により大腸菌が確認された後、血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において区分番号「D 0 1 8」細菌培養同定検査の費用は別に算定できない。
- (26) 「23」の尿中肺炎球菌莢膜抗原は、免疫クロマト法により実施した場合に限り算定できる。
- (27) 「23」の抗アニサキス I g G・A抗体価精密測定は、腸アニサキス症、肉芽腫を伴う慢性胃アニサキス症又はアニサキス異所迷入例（肺アニサキス症等）における診断のために実施した場合のみ算定できる。
- (28) 「23」のレプトスピラ抗体価は、秋疫A、秋疫B、秋疫C、ワイル病、カニコーラのそれぞれについて算定する。
- (29) 「24」のツツガムシ抗体価は、各株ごとに算定する。
- (30) グロブリンクラス別クラミジアトラコマチス抗体価精密測定
- ア 「24」のグロブリンクラス別クラミジアトラコマチス抗体価精密測定は、クラミジアトラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患（骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等）の診断に際し、I g G抗体価又はI g A抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、I g M抗体価を測定した場合に算定する。
- イ I g G抗体価、I g A抗体価及びI g M抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

- (31) 「24」の(1→3)- β -D-グルカンは、発色合成基質法又は比濁時間分析法により、深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定する。
- なお、本検査を「18」のカンジダ抗原、「19」のD-アラビニトール、「20」のアスペルギルス抗原又は「22」のクリプトコックス・ネオフォルマンズ抗原と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- (32) 「25」のサイトメガロウイルス抗体価精密測定を「25」のグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定と併せて行った場合は、主たるもののみを算定する。
- (33) グロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定
- ア 「25」のグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。ただし、「(ト)」のヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している妊婦について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。
- (イ) ヘルペスウイルス
 - (ロ) 風疹ウイルス
 - (ハ) サイトメガロウイルス
 - (ニ) EBウイルス
 - (ホ) 麻疹ウイルス
 - (ヘ) ムンプスウイルス
 - (ト) ヒトパルボウイルスB19
- イ 同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
- ウ 「11」のウイルス抗体価と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
- (34) 「26」の尿中レジオネラ抗原は、症状や所見からレジオネラ症が疑われる患者に対して、ELISA法又は免疫クロマト法により実施した場合に限り1回を限度として算定する。
- (35) 「28」のHIV-1抗体価精密測定又は「30」のHIV-2抗体価精密測定は、スクリーニング検査としての「15」のHIV-1抗体価又は「16」のHIV-1, 2抗体価が陽性の場合の確認診断用の検査である。
- (36) 「29」のダニ特異IgG抗体価は、減感作療法実施中の患者の場合に、必要な限度において算定できる。
- (37) 「29」のワイルフェリックス反応は、菌株ごとにそれぞれ所定点数を算定する。
- (38) 「31」の白血球中サイトメガロウイルスpp65抗原は免疫染色法により、骨髄移植後、臓器移植後、臍帯血移植後若しくは同種末梢血幹細胞移植後の患者又はHIV感染者に対して行った場合のみ算定できる。
- (39) 「32」のHTLV-I抗体価精密測定(ウエスタンブロット法)は、「12」のHTLV-I抗体価又は「22」のHTLV-I抗体価精密測定によって陽性が確認された症例について、確定診断の目的で行われた場合にのみ算定する。
- (40) 「33」のHIV抗原精密測定は、HIV感染者の経過観察又はHIV感染ハイリスク群が急性感染症状を呈した場合の確定診断に際して測定した場合に算定する。

D 0 1 3 肝炎ウイルス関連検査

- (1) 「5」のHCVコア蛋白質測定は、E I A法又はI R M A法による。
- (2) 「6」のH B c抗体価とI g M-H B c抗体価精密測定を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定する。
- (3) 「6」のH A抗体価精密測定とI g M-H A抗体価精密測定を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみを算定する。
- (4) 「8」のH C V特異抗体価測定による群別判定は、E I A法により、C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。
- (5) 「9」のB型肝炎ウイルスコア関連抗原(H B c r A g)は、B型肝炎ウイルス感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のB型肝炎ウイルスコア関連抗原(H B c r A g)を測定した場合に1月に1回に限り算定する。なお、区分番号「D 0 2 3」微生物核酸同定・定量検査の「3」のH B V核酸定量検査又は「5」のD N Aポリメラーゼを同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- (6) H B s抗原検査を免疫クロマト法にて行った場合は、「1」のH B s抗原により算定する。

D 0 1 4 自己抗体検査

- (1) 「2」のリウマトイド因子、「7」の抗ガラクトース欠損I g G抗体価、「7」のマトリックスメタロプロテイナーゼ-3(M M P-3)精密測定、「9」のC₁q結合免疫複合体精密測定、「12」のモノクローナルR F結合免疫複合体精密測定、「13」のI g G型リウマチ因子精密測定及び「13」のC₃d結合免疫複合体精密測定のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。
- (2) 「3」の甲状腺自己抗体検査は、サイログロブリン抗体の検出及びマイクロゾーム抗体の検出を含む。
- (3) 「7」の抗ガラクトース欠損I g G抗体価は、E C L I A法又はレクチン酵素免疫測定法による。なお、「2」のリウマトイド因子を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- (4) 「8」の抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体を、「3」の甲状腺自己抗体検査(マイクロゾーム抗体の場合に限る。)又は「8」の甲状腺自己抗体精密測定(マイクロゾーム抗体の場合に限る。)と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- (5) 「11」の抗セントロメア抗体精密測定は、原発性胆汁性肝硬変又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合のみ算定できる。
- (6) 抗シトルリン化ペプチド抗体精密測定
ア 「13」の抗シトルリン化ペプチド抗体精密測定は、関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
イ 「13」の抗シトルリン化ペプチド抗体精密測定、「7」の抗ガラクトース欠損I g G抗体価、「7」のマトリックスメタロプロテイナーゼ-3(M M P-3)精密測定、「9」のC₁q結合免疫複合体精密測定、「12」のモノクローナルR F結合免疫複合体

精密測定、「13」のIgG型リウマチ因子精密測定及び「13」のC₃d結合免疫複合体精密測定のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。

(7) 抗LKM-1抗体精密測定

ア 「14」の抗LKM-1抗体精密測定は、ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、かつ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。

イ 本検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性である旨を記載すること。

(8) 「15」の抗カルジオリピン抗体精密測定と「14」の抗カルジオリピンβ₂グリコプロテインI（抗CLβ₂GPI）複合体抗体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

(9) 「15」のTSHレセプター抗体精密測定及び「19」のTSH刺激性レセプター抗体（TSA_b）精密測定を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定する。

(10) 血清中抗デスモグレイン3抗体

ア 「16」の血清中抗デスモグレイン3抗体は、ELISA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患調査研究事業稀少難治性疾患に関する調査研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。

イ 尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と「18」の血清中抗デスモグレイン1抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

(11) 「16」の血清中抗BP180NC16a抗体は、ELISA法により、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。

(12) 「17」のループスアンチコアグラントは、希釈ラッセル蛇毒試験法又はリン脂質中和法により、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定する。

(13) 「17」の抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）は、ELISA法により、急速進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合に算定する。

(14) 「17」の抗糸球体基底膜抗体精密測定は、抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する。

(15) 血清中抗デスモグレイン1抗体

ア 「18」の血清中抗デスモグレイン1抗体は、ELISA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患調査研究事業稀少難治性疾患に関する調査研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。

イ 落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と「16」の血清中抗デスモグレイン3抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

(16) 「20」の抗GM1IgG抗体は、ELISA法により、進行性筋力低下又は深部腱反射低下等のギラン・バレー症候群が疑われる所見が見られる場合において、診断時に1回に限り算定でき、経過観察時は算定できない。

(17) 「20」の抗GQ1bIgG抗体は、ELISA法により、眼筋麻痺又は小脳性運動失調

等のフィッシャー症候群が疑われる場合において、診断時に1回に限り算定でき、経過観察時は算定できない。

- (18) 「21」の抗アセチルコリンレセプター抗体価は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。
- (19) 「22」のグルタミン受容体自己抗体は、ラスマッセン脳炎、小児の慢性進行性持続性部分てんかん又はオプソクローヌス・ミオクローヌス症候群の診断の補助として行った場合に、1月に1回に限り算定できる。

D 0 1 5 血漿蛋白免疫学的検査

- (1) 「4」の免疫グロブリンは、I g G、I g A、I g M及びI g Dを測定した場合に、それぞれ所定点数を算定する。
- (2) 「6」の血清アミロイドA (S A A) 蛋白精密測定を「1」のC反応性蛋白 (C R P) 定性又は「1」のC反応性蛋白 (C R P) 定量と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- (3) 「8」の補体蛋白 (C₃) 測定、「8」の補体蛋白 (C₄) 測定及び「7」のトランスフェリンは、S R I D法又は通則に掲げる精密検査による。
- (4) 「16」のアレルゲン刺激性遊離ヒスタミン (H R T) 測定は細胞反応測定法により実施され、「11」の特異的I g Eと同時にに行った場合であっても、特異抗原の種類ごとに所定点数を算定し、特異的I g Eと併せて1,430点を限度として算定する。
- (5) 「18」の血中A P Rスコアは、 α_1 -酸性糖蛋白、ハプトグロビン及びC R Pの3つを測定した場合に算定する。
- (6) 「18」のアトピー鑑別試験は、12種類の吸入性アレルゲン (ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコ皮膚、イヌ皮膚、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ (属)、スギ、カンジダ、アルテルナリア) に対する特異的I g Eを測定した場合に算定する。
- (7) 「19」の頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチンは、破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象として測定した場合のみ算定する。
- (8) 「19」の頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン及び区分番号「007」血液化学検査の「28」の腔分泌液中インスリン様成長因子結合蛋白1型 (I G F B P - 1) を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- (9) 免疫電気泳動法によってI g A、I g M及びI g Gを同時に測定した場合は、1回の検査として「21」の免疫電気泳動法により算定する。
- (10) 免疫グロブリンL鎖 κ/λ 比
 - ア 「23」の免疫グロブリンL鎖 κ/λ 比はネフェロメトリー法により、高免疫グロブリン血症の鑑別のために測定した場合に算定できる。
 - イ 「23」の免疫グロブリンL鎖 κ/λ 比と「21」の免疫電気泳動法を同時に実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- (11) 「24」の結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン γ 測定は、診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。ただし、区分番号「D 0 2 3」微生物核酸同定・定量検査の「7」の結核菌群核酸増幅同定検査を

併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

D 0 1 6 細胞機能検査

- (1) 「4」の顆粒球スクリーニング検査は、白血球墨粒貪食試験、NBT還元能検査を、「2」の顆粒球機能検査は、化学遊走物質、細菌、光化学反応を用いた検査を、「4」のモノクローナル抗体法によるT細胞サブセット検査は、免疫不全の診断目的に行う検査をいい、いずれも検査方法にかかわらず、一連として算定する。
- (2) 「5」のフローサイトメトリーのTwo-color分析法による赤血球検査は、発作性夜間血色素尿症（PHN）の鑑別診断のため、2種類のモノクローナル抗体を用いた場合に算定できる。
- (3) 「5」のリンパ球幼若化検査（一連につき）は、Con-A又はPHAによるものである。なお、薬疹について実施する場合においても算定できる。

D 0 1 7 排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査

- (1) 排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査は、尿、糞便、喀痰、穿刺液、胃液、十二指腸液、胆汁、膿、眼分泌液、鼻腔液、咽喉液、口腔液、その他の滲出物等について細菌、原虫等の検査を行った場合に該当する。
- (2) 染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2以上用いた場合であっても、1回として算定する。

D 0 1 8 細菌培養同定検査

(1) 細菌培養同定検査

ア 細菌培養同定検査は、抗酸菌を除く一般細菌、真菌、原虫等を対象として培養を行い、同定検査を行うことを原則とする。

イ 同定検査を予定して培養したものであれば、菌が陰性の場合であっても「1」から「4」までの項により算定するが、あらかじめ培養により菌の有無のみを検索する場合は、検体の種類にかかわらず、「5」の簡易培養検査により算定する。

ウ 細菌培養同定検査は、検体ごとに「1」から「4」までの所定点数を算定できるが、同一検体を用いて簡易培養検査を併せて行った場合は、「5」の簡易培養検査は算定できない。

エ 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1部位のみの所定点数を算定する。

オ 各検体別の所定点数には、定量培養を行った場合を含む。

- (2) 「2」における穿刺液とは、胸水、腹水、髄液及び関節液をいい、「4」の「その他の部位からの検体」とは、「1」から「3」までに掲げる部位に含まれない全ての部位からの検体をいい、例えば、皮下からの検体をいう。

(3) 簡易培養検査

ア 「5」の簡易培養検査は、Dip-Slide法、簡易培地等を用いて簡単な培養を行うものである。

イ ウロトレース、ウリグロックスペーパー等の尿中細菌検査用試験紙による検査は、区分番号「D 0 0 0」尿中一般物質定性半定量検査に含まれるものであり、別に算定できない。

- (4) 嫌気性培養のみを行った場合は、「1」から「5」の所定点数のみ算定し、「注」の加算は算定できない。

D 0 1 9 細菌薬剤感受性検査

細菌薬剤感受性検査は、結果として菌が検出できず実施できなかった場合においては算定しない。

D 0 1 9 - 2 酵母様真菌薬剤感受性検査

酵母様真菌薬剤感受性検査は、深在性真菌症（カンジダ、クリプトコックスに限る。）であり、原因菌が分離できた患者に対して行った場合に限り算定する。

D 0 2 0 抗酸菌分離培養検査

- (1) 抗酸菌分離培養検査は、検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を算定する。
- (2) 「1」の抗酸菌分離培養検査1は、液体培地を用いて培養を行い、酸素感受性蛍光センサー、二酸化炭素センサー又は酸化還元呈色色素を用いて検出を行った場合に算定する。
- (3) 「2」の抗酸菌分離培養検査2は、(2)に掲げるもの以外について算定する。
- (4) 抗酸菌分離培養検査は、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。

D 0 2 1 抗酸菌同定検査

抗酸菌同定検査は、検査方法、培地数にかかわらず、1回のみ所定点数を算定する。

D 0 2 2 抗酸菌薬剤感受性検査

- (1) 抗酸菌薬剤感受性検査は、直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤の種類により算定する。
- (2) 混合薬剤耐性検査においても、使われた薬剤の種類により算定する。

D 0 2 3 微生物核酸同定・定量検査

- (1) 微生物核酸同定・定量検査における精密検査は、核酸ハイブリダイゼーション法によるものであり、「7」の抗酸菌群核酸同定精密検査においては、マイクロプレート・ハイブリダイゼーション法によるものをいう。
- (2) クラミジアトラコマチス核酸同定検査
- ア 「2」のクラミジアトラコマチス核酸同定検査と区分番号「D 0 1 2」感染症免疫学的検査の「20」のクラミジアトラコマチス抗原精密測定を併用した場合は、主なもののみ算定する。
- イ クラミジアトラコマチス核酸同定検査は、PCR法、LCR法又はSDA法による。クラミジアトラコマチス核酸同定検査は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。なお、SDA法においては咽頭からの検体も算定できる。
- (3) 淋菌核酸同定検査
- ア 「2」の淋菌核酸同定検査、区分番号「D 0 1 2」感染症免疫学的検査の「21」の淋菌同定精密検査又は区分番号「D 0 1 8」細菌培養同定検査を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。
- イ 淋菌核酸同定検査は、DNAプローブ法、LCR法による増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法又はSDA法による。淋菌核酸同定検査は、泌尿器、生殖器又は咽

頭からの検体によるものである。ただし、男子尿を含み、女子尿を含まない。なお、S D A法においては咽頭からの検体も算定できる。

(4) 「3」のHBV核酸定量検査は、分岐DNAプローブ法、TMA法又はPCR法による。

(5) 淋菌及びクラミジアトラコマチス同時核酸増幅同定精密検査

ア 「4」の淋菌及びクラミジアトラコマチス同時核酸増幅同定精密検査は、クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査によっては感染因子の鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。

ただし、区分番号「D012」感染症免疫学的検査の「21」の淋菌同定精密検査、同区分「20」のクラミジアトラコマチス抗原精密測定、本区分「2」の淋菌核酸同定検査又はクラミジアトラコマチス核酸同定検査を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

イ 「4」の淋菌及びクラミジアトラコマチス同時核酸増幅同定精密検査は、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法、PCR法による同時増幅法及び核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法又はSDA法による。淋菌及びクラミジアトラコマチス同時核酸増幅同定精密検査は、泌尿器又は生殖器からの検体によるものである。ただし、男子尿は含み、女子尿は含まない。なお、SDA法においては咽頭からの検体も算定できる。

(6) HCV核酸同定検査

ア 「6」のHCV核酸同定検査はPCR法又はTMA法により、C型肝炎の治療方法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。

イ 治療方法の選択の場合においては、抗体陽性であり、かつ、「9」のHCV核酸定量検査で検出限界を下回る者について実施した場合に算定できるものとし、治療経過の観察の場合においては、本検査と「9」のHCV核酸定量検査を併せて実施した場合には、いずれか一方に限り算定する。

(7) 「7」の抗酸菌群核酸同定精密検査は、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。

(8) 「7」の結核菌群核酸増幅同定検査は、核酸増幅と液相ハイブリダイゼーション法による検出又はLCR法による核酸増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法による。

なお、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。

(9) マイコバクテリウムアビウム・イントラセルラー核酸同定精密検査

ア 「8」のマイコバクテリウムアビウム・イントラセルラー核酸同定精密検査は、他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。

イ 区分番号「D021」抗酸菌同定検査が併せて実施された場合にあっては、主なもののみ算定する。

(10) HCV核酸定量検査

ア 「9」のHCV核酸定量検査は、分岐DNAプローブ法又はPCR法により、C型肝炎

炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。

イ 治療経過の観察の場合において、「9」のHCV核酸定量検査及び「6」のHCV核酸同定検査を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

(11) 血清中のHBVプレコア変異及びコアプロモーター変異遺伝子同定検査

ア 「9」の血清中のHBVプレコア変異及びコアプロモーター変異遺伝子同定検査は、下記「イ」又は「ウ」に掲げる患者に対し、PCR法により測定した場合に限り算定できる。

イ B型急性肝炎患者に対しては、劇症肝炎が疑われる場合に限り、患者1人につき1回算定できる。

ウ B型慢性肝炎患者に対しては、経過観察中にALT異常値などにより肝炎増悪が疑われ、かつ、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の投与対象患者の選択のために行われた場合に限り算定できる。なお、本検査実施以降は、区分番号「D013」肝炎ウイルス関連検査のうちB型肝炎に関する検査（ただし抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の治療効果判定に用いる検査を除く。）は、算定できない。

(12) 「9」のブドウ球菌メチシリン耐性遺伝子同定検査は、ED-PCR法又はPCR法により、血液培養により黄色ブドウ球菌が検出された患者を対象として測定した場合又は免疫不全状態であって、MRSA感染症が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。

(13) SARSコロナウイルス核酸増幅検査

ア 「9」のSARSコロナウイルス核酸増幅検査は、LAMP法により測定した場合に限り算定できる。

イ 「9」のSARSコロナウイルス核酸増幅検査は、糞便又は鼻腔咽頭拭い液からの検体により行うものである。

ウ 本検査は、「感染症法に基づく医師から都道府県等への届出のための基準の改正について」（平成15年11月5日健感発第1105006号）による臨床的特徴、届出基準によりSARS感染症の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に、診断の確定までの間に1回を限度として算定する。ただし、発症後10日以内に他疾患であるとの診断がつかない場合は、さらに1回に限り算定できる。

(14) HIV-I核酸定量検査

ア 「10」のHIV-I核酸定量検査はPCR法と核酸ハイブリダイゼーション法を組み合わせた方法により、HIV感染者の経過観察に用いた場合又は区分番号「D012」感染症免疫学的検査の「15」のHIV-1抗体価又は「16」のHIV-1,2抗体価が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。

イ HIV-I核酸定量検査と区分番号「D012」感染症免疫学的検査の「28」のHIV-1抗体価精密測定を併せて実施した場合は、それぞれを算定することができる。

(15) 結核菌群リファンピシン耐性遺伝子同定検査

ア 「11」の結核菌群リファンピシン耐性遺伝子同定検査は、同時に結核菌を同定した場合に限り算定する。

イ 「11」の結核菌群リファンピシン耐性遺伝子同定検査は、「7」の結核菌群核酸増幅同定検査を併用した場合は、主たるもののみ算定する。

- (16) 「12」のH I V－ジェノタイプ薬剤耐性検査は、抗H I V治療の選択及び再選択の目的で行った場合に、3月に1回を限度として算定できる。

D 0 2 3－2 その他の微生物学的検査

- (1) 黄色ブドウ球菌ペニシリン結合蛋白2' (P B P 2')

ア 「1」の黄色ブドウ球菌ペニシリン結合蛋白2' (P B P 2')は、L A法により実施した場合に算定する。

イ 「1」の黄色ブドウ球菌ペニシリン結合蛋白2' (P B P 2')は、血液培養により黄色ブドウ球菌が検出された患者を対象として測定した場合又は免疫不全状態であって、M R S A感染症が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。

ウ 「1」の黄色ブドウ球菌ペニシリン結合蛋白2' (P B P 2')と区分番号「D 0 2 3」微生物核酸同定・定量検査の「9」のブドウ球菌メチシリン耐性遺伝子同定検査を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

- (2) 「2」の尿素呼気試験を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10月31日保険発第180号）に即して行うこと。

- (3) 「3」の腸炎ビブリオ菌耐熱性溶血毒 (T D H) 検査は、E L I S A法によるものであり、区分番号「D 0 1 8」細菌培養同定検査によって、腸炎ビブリオ菌が確認された場合のみ算定できる。

- (4) 大腸菌ベロトキシン検出検査

ア 「4」の大腸菌ベロトキシン検出検査は、大腸菌の抗原同定検査の結果より病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。

イ 「4」の大腸菌ベロトキシン検出検査のうち、細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってE L I S A法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り、大腸菌の抗原同定検査を踏まえることなく行った場合にも算定できる。

D 0 2 4 動物使用検査

従前、細菌動物検査、妊娠動物検査、トキソプラズマ症におけるマウス使用検査等動物を用いて行う検査として認められていたものについては、本区分により算定する。

D 0 2 5 基本的検体検査実施料

- (1) 基本的検体検査実施料は、特定機能病院である保険医療機関の入院医療において通常行われる基本的な検査について、請求の簡素化の観点から包括化して入院日数に応じた請求方法を導入したものである。

- (2) 基本的検体検査実施料に含まれない検査を行った場合は、別途当該検査に係る所定点数を算定でき、当該検査が基本的検体検査判断料の対象に含まれないものであるときは、当該検査に係る検体検査判断料も併せて別途算定できる。

- (3) 入院日数については、入院の都度当該入院の初日から起算し、また、退院日も算定対象とする。

- (4) 外泊期間中は、入院日数に含まれない。

- (5) 療養病棟、結核病棟若しくは精神病棟に入院している患者及び第1章第2部第2節に規定するH I V感染者療養環境特別加算若しくは重症者等療養環境特別加算又は同部第3節

に規定する特定入院料を算定している患者については、基本的検体検査実施料は別に算定しないが、入院日数は入院の初日から数える。

- (6) 1月を通じて、基本的検体検査実施料に包括されている検査項目のいずれも行われなかった場合は、当該月は本実施料は請求できない。

第2款 検体検査判断料

D026 検体検査判断料

- (1) 検体検査については、実施した検査に係る検体検査実施料及び当該検査が属する区分（尿・糞便等検査判断料から微生物学的検査判断料までの6区分）に係る検体検査判断料を合算した点数を算定する。
- (2) 各区分の検体検査判断料については、その区分に属する検体検査の種類及び回数にかかわらず、月1回に限り、初回検査の実施日に算定する。
- (3) 実施した検査が属する区分が2以上にわたる場合は、該当する区分の判断料を合算した点数を算定できる。
- (4) 同一月内において、同一患者に対して、入院及び外来の両方又は入院中に複数の診療科において検体検査を実施した場合においても、同一区分の判断料は、入院・外来又は診療科の別にかかわらず、月1回に限る。
- (5) 上記の規定にかかわらず、区分番号「D000」尿中一般物質定性半定量検査を実施した場合は、当該検査に係る検体検査判断料は算定しない。

区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「15」の慢性維持透析患者外来医学管理料又は区分番号「D025」基本的検体検査実施料を算定した月と同一月に検体検査を行った場合は、それぞれの区分に包括されている検体検査に係る判断料は別に算定できない。

- (6) 注3に規定する検体検査管理加算(I)は入院中の患者及び入院中の患者以外の患者に対し、検体検査管理加算(II)及び検体検査管理加算(III)は入院中の患者に対して、検体検査を実施し検体検査判断料のいずれかを算定した場合に、患者1人につき月1回に限り加算するものであり、検体検査判断料を算定しない場合に本加算は算定できない。

また、区分番号「D027」基本的検体検査判断料の注2に掲げる加算を算定した場合には、本加算は算定できない。

- (7) 入院中の患者について注3に規定する検体検査管理加算(II)又は検体検査管理加算(III)を算定している保険医療機関であっても、入院中の患者以外の患者について検体検査管理加算(I)を算定することができる。
- (8) 注4に規定する遺伝カウンセリング加算は、臨床遺伝学に関する十分な知識を有する医師が、区分番号「D006-4」遺伝病的検査を実施し、患者又はその家族に対し当該検査の結果に基づいて療養上の指導を行った場合に算定する。

なお、遺伝カウンセリングの実施に当たっては、厚生労働省「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」（平成16年12月）及び関係学会による「遺伝学的検査に関するガイドライン」（平成15年8月）を遵守すること。

D027 基本的検体検査判断料

- (1) 基本的検体検査判断料は、特定機能病院である保険医療機関の入院医療において通常行われる基本的な検査について、請求の簡素化の観点から、月1回の包括的な判断料を設定したものである。

- (2) 基本的検体検査実施料に含まれない検査を行った場合は、当該検査が基本的検体検査判断料の対象に含まれないものであるときは、当該検査に係る検体検査判断料も併せて別途算定できる。
- (3) 療養病棟、結核病棟若しくは精神病棟に入院している患者及び第1章第2部第2節に規定するHIV感染者療養環境特別加算若しくは重症者等療養環境特別加算を算定している患者については、基本的検体検査判断料は、別に算定しない。
- (4) 1月を通じて、基本的検体検査実施料に包括されている検査項目のいずれも行われなかった場合は、当該月は本判断料は請求できない。
- (5) 特定機能病院において、(3)に掲げる場合以外で基本的検体検査判断料を算定すべき場合は、尿・糞便等検査判断料、血液学的検査判断料、生化学的検査・判断料、免疫学的検査判断料及び微生物学的検査判断料を算定することはできず、本判断料を算定するものとする。

第2節 削除

第3節 生体検査料

- 1 同一月内において、同一患者に対して、入院及び外来の両方又は入院中に複数の診療科において生体検査が実施された場合であっても、同一の生体検査判断料は、月1回を限度として算定する。
- 2 2回目以降について所定点数の100分の90に相当する点数により算定することとされている場合において「所定点数」とは、当該項目に掲げられている点数及び当該注に掲げられている加算点数を合算した点数である。
- 3 同一月内に2回以上実施した場合、所定点数の100分の90に相当する点数により算定することとされている生体検査は、外来及び入院にまたがって行われた場合においても、これらを通算して2回目以降は100分の90で算定する。
- 4 2回目以降100分の90に相当する点数により算定することとされている場合に、新生児加算又は乳幼児加算を行う場合は、所定点数にそれぞれの割合を乗じた上で、端数が生じた場合には、これを四捨五入した点数により算定する。

[呼吸循環機能検査等に係る共通事項（区分番号「D200」から区分番号「D214」）]

(1) 2回目以降100分の90で算定する場合の「同一の検査」

区分番号「D208」心電図検査の「1」から「5」まで、区分番号「D209」負荷心電図検査の「1」及び「2」、区分番号「D210」ホルター型心電図検査の「1」及び「2」については、それぞれ同一の検査として扱う。また、準用が通知されている検査については、当該検査が準ずることとされている検査と同一の検査として扱う。

(2) 呼吸循環機能検査等に係る一般事項

ア 通則の「特に規定する場合」とは、区分番号「D208」心電図検査の「注」又は区分番号「D209」負荷心電図検査の「注1」に掲げる場合をさす。

イ 区分番号「D200」スパイログラフィー等検査から区分番号「D203」肺胞機能検査までの各検査については、特に定めのない限り、次に掲げるところによる。

- a 実測値から算出される検査値については算定できない。
 - b 測定方法及び測定機器は限定しない。
 - c 負荷を行った場合は、負荷の種類及び回数にかかわらず、その前後の検査について、それぞれ1回のみ所定点数を算定する。
 - d 使用したガス（CO、CO₂、He等）は、購入価格を10円で除して得た点数を別に算定できる。
 - e 喘息に対する吸入誘発試験は、負荷試験に準ずる。
- (3) 肺活量計による肺活量の測定は、別に算定できない。

D 2 0 0 スパイログラフィー等検査

- (1) 「1」の肺気量分画測定には、予備吸気量、1回換気量及び予備呼気量の全ての実測及び実測値から算出される最大呼吸量の測定のほか、安静換気量及び最大換気量の測定が含まれる。
- (2) 「1」の肺気量分画測定及び区分番号「D 2 0 2」肺内ガス分布の「1」の指標ガス洗い出し検査とを同時に実施した場合には、機能的残気量測定は算定できない。
- (3) 「2」のフローボリュームカーブは、曲線を描写し記録した場合にのみ算定し、強制呼出曲線の描出に係る費用を含む。また、フローボリュームカーブから計算によって求められる努力肺活量、1秒量、1秒率、MMF、PFR等は、別に算定できない。
- (4) 「5」の左右別肺機能検査の所定点数には、カテーテル挿入並びに他の「1」から「4」までのスパイログラフィー等検査及び換気力学的検査の費用を含む。
- (5) 体プレストモグラフを用いる諸検査は、別に定めのない限り、「3」により算定する。

D 2 0 1 換気力学的検査

「2」中のコンプライアンス測定の所定点数には、動肺コンプライアンス測定及び静肺コンプライアンス測定の双方を含む。

D 2 0 4 基礎代謝測定

基礎代謝測定の所定点数には、患者に施用する窒素ガス又は酸素ガスの費用を含む。

D 2 0 6 心臓カテーテル法による諸検査

- (1) 心臓カテーテル検査により大動脈造影、肺動脈造影及び肺動脈閉塞試験を行った場合においても、心臓カテーテル法による諸検査により算定するものとし、血管造影等のエックス線診断の費用は、別に算定しない。
- (2) 心臓カテーテル法による諸検査のようなカテーテルを用いた検査を実施した後の縫合に要する費用は、所定点数に含まれる。
- (3) 「1」の右心カテーテル及び「2」の左心カテーテルを同時に行った場合であっても、「注1」、「注2」及び「注3」の加算は1回のみに限られる。
- (4) 血管内視鏡検査加算は患者1人につき月1回に限り算定する。

D 2 0 7 体液量等測定

- (1) 体液量等測定の所定点数には、注射又は採血を伴うものについては第6部第1節第1款の注射実施料及び区分番号「D 4 0 0」血液採取を含む。
- (2) 「2」の皮弁血流検査は、1有茎弁につき2回までを限度として算定するものとし、使用薬剤及び注入手技料は、所定点数に含まれ、別に算定しない。

- (3) 「2」の血流量測定は、電磁式によるものを含む。
- (4) 「2」の電子授受式発消色性インジケータ使用皮膚表面温度測定は、皮弁形成術及び四肢の血行再建術後に、術後の血行状態を調べるために行った場合に算定する。
ただし、術後1回を限度とする。
なお、使用した電子授受式発消色性インジケータの費用は、所定点数に含まれ、別に算定できない。
- (5) 「2」の血管伸展性検査は、描写し記録した脈波図により脈波伝達速度を求めて行うものであり、このために行った脈波図検査と併せて算定できない。

D208 心電図検査

- (1) 「1」の四肢単極誘導及び胸部誘導を含む最低12誘導は、普通、標準肢誘導（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）、単極肢誘導（ aV_R 、 aV_L 、 aV_F ）、胸部誘導（ V_1 、 V_2 、 V_3 、 V_4 、 V_5 、 V_6 ）の12誘導で、その他特別の場合に V_7 、 V_8 、食道誘導等を行う場合もこれに含まれる。
- (2) 当該保険医療機関以外の医療機関で描写したのものについて診断のみを行った場合は、診断料として1回につき所定点数を算定できるが、患者が当該傷病につき当該医療機関で受診していない場合は算定できない。
- (3) 当該保険医療機関以外の医療機関で描写した検査について診断を行った場合の算定については、2回目以降においても100分の90の算定としない。
- (4) 「3」の携帯型発作時心電図記憶伝送装置使用心電図検査は、入院中の患者以外の患者に対して、携帯型発作時心電図記憶伝送装置を用いて発作時等の心電図を記録させた場合に、一連につき1回算定する。
- (5) 「4」のバリストカルジオグラフは、心弾動計、弾動心拍出量計により行った場合に算定する。

D209 負荷心電図検査

- (1) 負荷心電図検査の「負荷」は、運動負荷、薬剤負荷をいい、負荷の種類及び回数によらない。
- (2) 当該保険医療機関以外の医療機関で描写したのものについて診断のみを行った場合は、診断料として1回につき所定点数を算定できるが、患者が当該傷病につき当該医療機関で受診していない場合は算定できない。
- (3) 当該保険医療機関以外の医療機関で描写した検査について診断を行った場合の算定については、2回目以降においても100分の90の算定としない。
- (4) 負荷心電図検査には、この検査を行うために一連として実施された心電図検査を含むものであり、同一日に行われた心電図検査は、別に算定できない。

D210 ホルター型心電図検査

- (1) ホルター型心電図検査（解析料を含む。）は、患者携帯用の記録装置を使って長時間連続して心電図記録を行った場合に算定するものであり、所定点数には、単に記録を行うだけでなく、再生及びコンピューターによる解析を行った場合の費用を含む。
- (2) やむを得ず不連続に記録した場合においては、記録した時間を合算した時間により算定する。また、24時間を超えて連続して記録した場合であっても、「2」により算定する。

D211 トレッドミルによる負荷心肺機能検査、サイクルエルゴメーターによる心肺機能検査

- (1) トレッドミルによる負荷心肺機能検査、サイクルエルゴメーターによる心肺機能検査に

は、この検査を行うために一連として実施された区分番号「D208」心電図検査、区分番号「D200」スパイログラフイー等検査を含むものであり、負荷の種類及び回数にかかわらず、所定点数により算定する。

(2) 呼吸器疾患に対して施行された場合にも、所定点数を算定できる。

D212 リアルタイム解析型心電図

(1) リアルタイム解析型心電図とは、入院中の患者以外の患者に対して8時間以上心電図をモニターしながら同時に波形を解析し、異常波形発現時にのみ記録を行い得るものをいう。

(2) リアルタイム解析型心電図記録計を用いて8時間以上心電図をモニターした場合は、解析の費用を含め、一連の使用について1回として算定する。

D212-2 携帯型発作時心電図記録計使用心電図検査

心電図を2日間以上連続して記録することができる携帯型発作時心電図記録計を用いて、記録スイッチ入力前を含む心電図を記録した場合に、解析の費用を含め、一連の使用について1回として算定する。

D213 心音図検査

亜硝酸アミル吸入心音図検査の点数算定は、薬剤負荷の前後の検査をそれぞれ1回として心音図検査により算定し、亜硝酸アミルについては、区分番号「D500」薬剤により算定する。

D214 脈波図、心機図、ポリグラフ検査

(1) 脈波図については、次に掲げる検査を2以上行った場合であり、脈波曲線を描写し記録した場合に算定する。

ア 心及び肝拍動図

イ 動脈波

ウ 静脈波

エ 容積脈波

オ 指尖脈波

カ 心尖（窩）拍動図

また、心機図とは各種脈波図と心電図、心音図検査等の2以上を同時に記録し、循環機能の解析を行う検査である。

(2) 「1」の「イ」から「ニ」までの誘導数については、種目又は部位を順次変えて検査した場合であっても、一連の検査のうちの最高誘導数による。

(3) 運動又は薬剤の負荷による検査を行った場合には、負荷前後の検査をそれぞれ1回の検査として算定し、複数の負荷を行った場合であっても、負荷の種類及び回数にかかわらず、所定点数の100分の200を限度として算定する。

(4) 脈波図、心機図、ポリグラフ検査を1誘導で行った場合は区分番号「D207」体液量等測定「2」により算定する。

D215 超音波検査

(1) 「1」から「5」までに掲げる検査のうち2以上のものを同一月内に同一の部位について行った場合、同一月内に2回以上行った場合の算定方法の適用においては、同一の検査として扱う。

(2) 超音波検査を同一の部位に同時に2以上の方法を併用する場合は、主たる検査方法により1回として算定する。また、同一の方法による場合は、部位数にかかわらず、1回のみ